

6. 学習内容の観点から

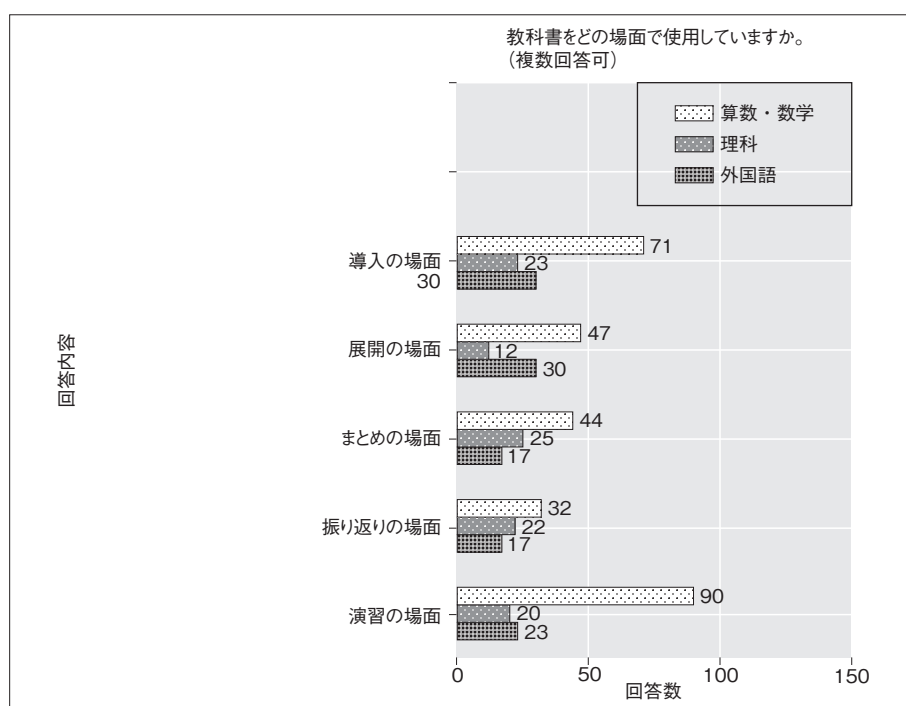
a. 算数・数学

DATA① 教科書の使用場面について

教科書の使用場面について、算数・数学では、回答者数115人において、複数回答可で、「導入の場面」が71人（62%）,「展開の場面」が47人（41%）,「まとめの場面」が44人（38%）,「振り返りの場面」が32人（28%）,「演習の場面」が90人（78%）であり、「導入の場面」と「演習の場面」における使用率が高かった。

また、算数・数学では、すべての場面で教科書が頻繁に使用されている傾向がみられ、授業における教科書の重要性が明らかになった。

Q 教科書をどの場面で使用していますか。



DATA② 授業で指導しやすいと感じる学習内容と指導しにくいと感じる学習内容について

「授業で指導しやすいと感じる学習内容」は、上位3つまで複数回答可で、反応者数58人において、五年生の「図形の合同，正多角形，円周率」が23人（39.7%），六年生の「線対称，点対称」が13人（22.4%），三年生の「整数の加法と減法」が10人（17.2%），四年生の「垂直と平行，台形，平行四辺形，ひし形」が10人（17.2%）であった。

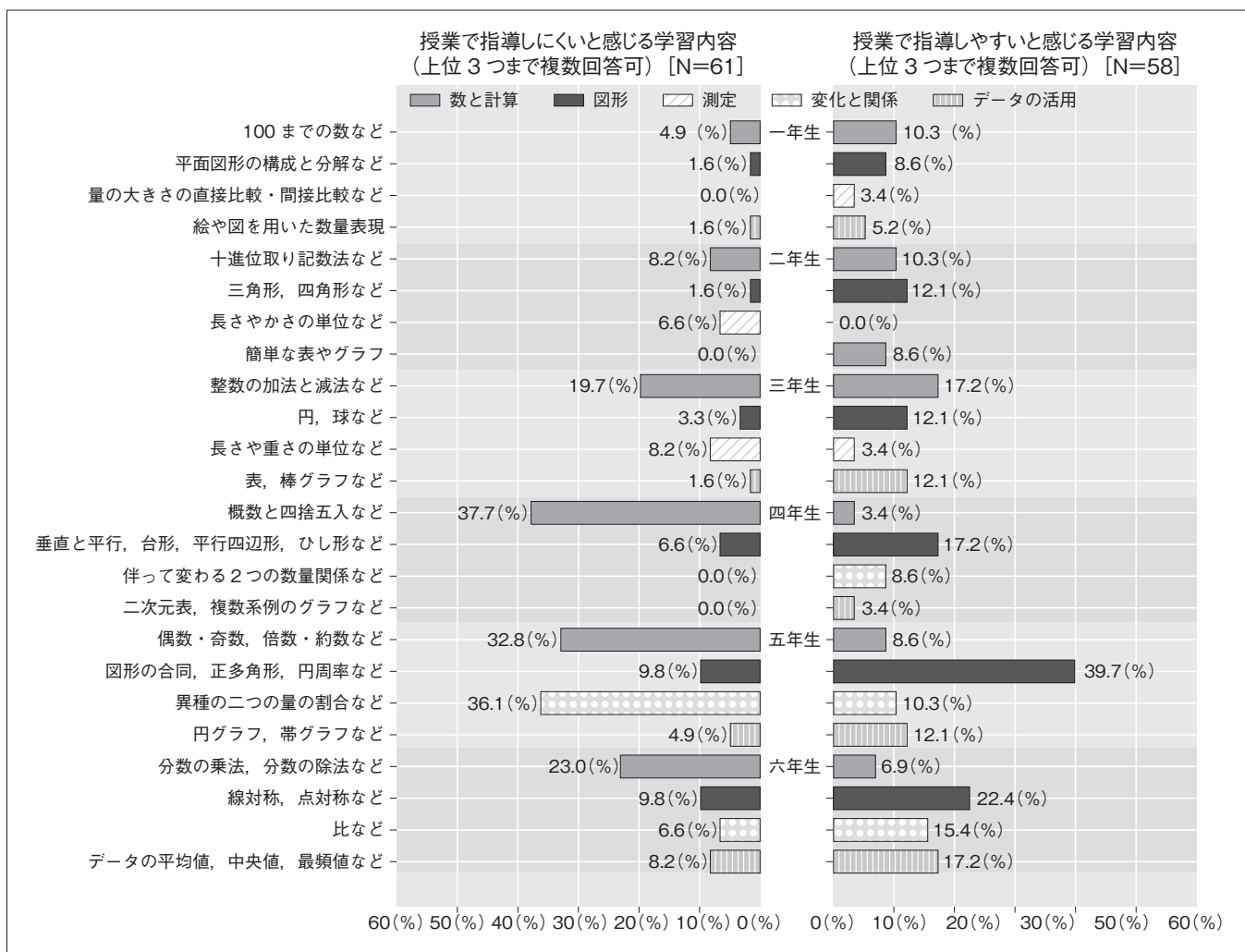
指導しやすい理由として、「図形の合同，正多角形，円周率」の学習内容では、「図や言葉を使って説明しやすい」が69.6%，「題材の場面設定がしやすい」が17.4%であった。また、「線対称，点対称」の学習内容では、「図や言葉を使って説明しやすい」が84.6%，「題材の場面設定がしやすい」が15.4%であった。

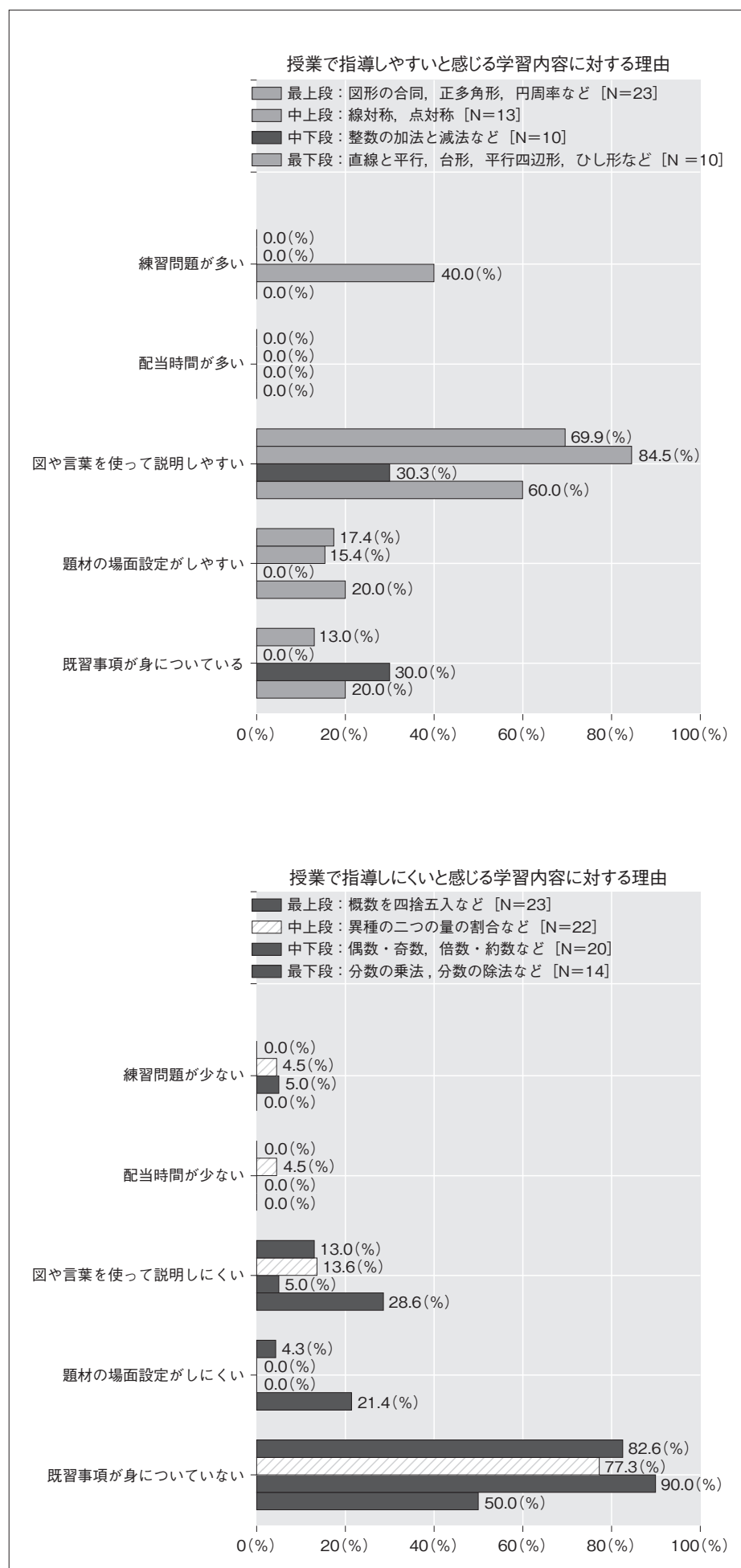
一方、「授業で指導しにくいと感じる学習内容」は、上位3つまで複数回答可で、反応者数61人において、四年生の「概数と四捨五入」が23人（37.7%），五年生の「異種の二つの量の割合」が22人（36.1%），五年生の「偶数・奇数，倍数・約数」が20人（32.8%），六年生の「分数の乗法，分数の除法」が14人（23.0%）であった。

指導しにくい理由として、「概数と四捨五入」の学習内容では、「既習事項が身についていない」が82.6%，「図や言葉を使って説明しにくい」が13.0%であった。

指導のしやすさ・しにくさが分かれる学習内容として、顕著なものはみられなかった。

Q 授業で指導しやすい（授業で指導しにくい）と感じる学習内容とその理由を挙げてください。
（小学校算数）





DATA③ 授業で指導しやすいと感じる学習内容と指導しにくいと感じる学習内容について
(中学校数学)

「授業で指導しやすいと感じる学習内容」は、上位3つまで複数回答可で、反応者数42人において、一年生の「正の数・負の数の意味」が16人（38.1%）、二年生の「文字を用いた式の四則計算」が14人（33.3%）、二年生の「四分位範囲、箱ひげ図」が12人（28.6%）、一年生の「平面図形の作図、直線と平面の位置関係」が11人（26.2%）、三年生の「平方根」が11人であった。

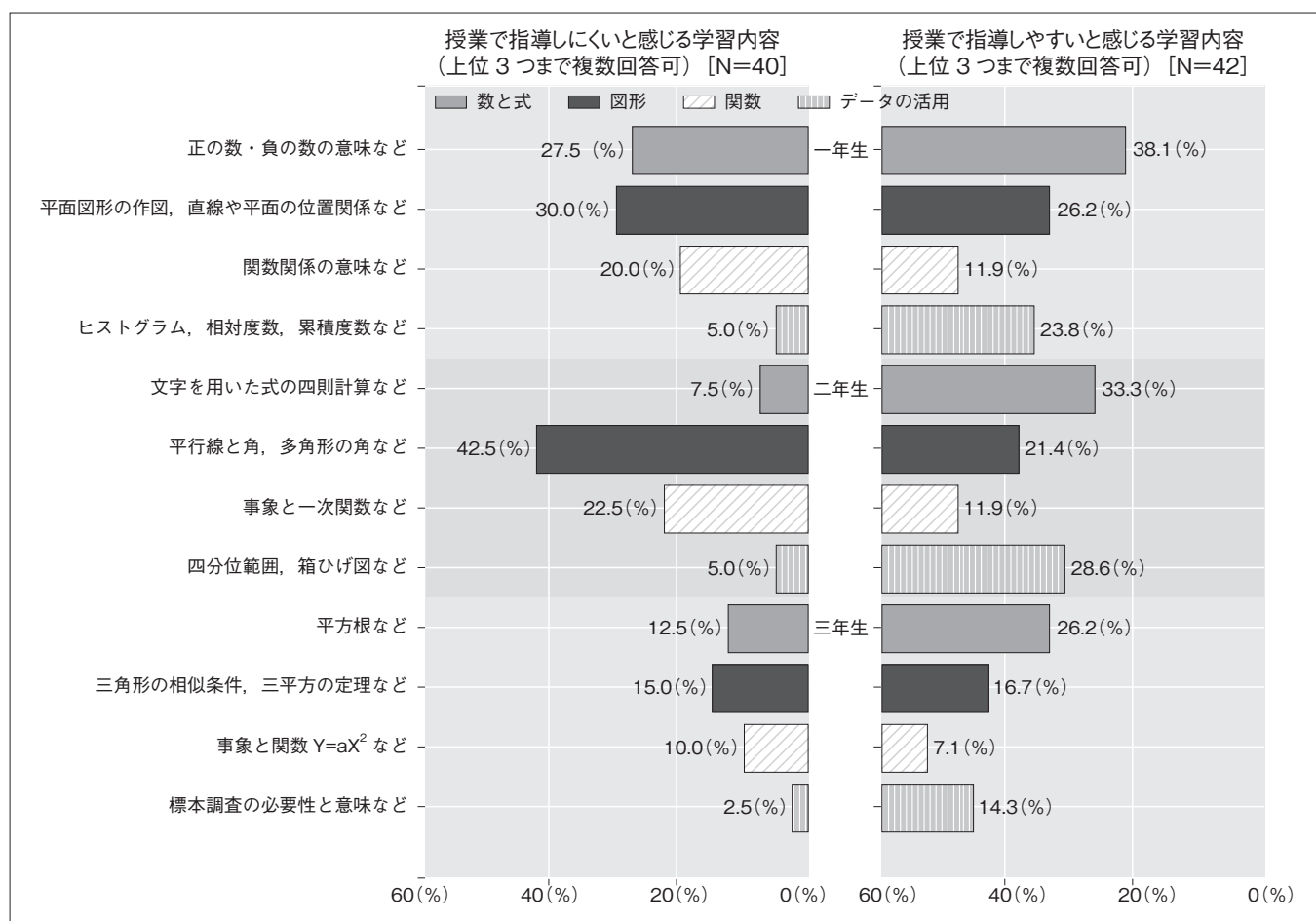
指導しやすい理由として、「正の数・負の数の意味」の学習内容では、「図や言葉を使って説明しやすい」が25.0%、「練習問題が多い」が25.0%であった。また、「文字を用いた式の四則計算」の学習内容では、「題材の場面設定がしやすい」が35.7%、「既習事項が身についている」が35.7%であった。

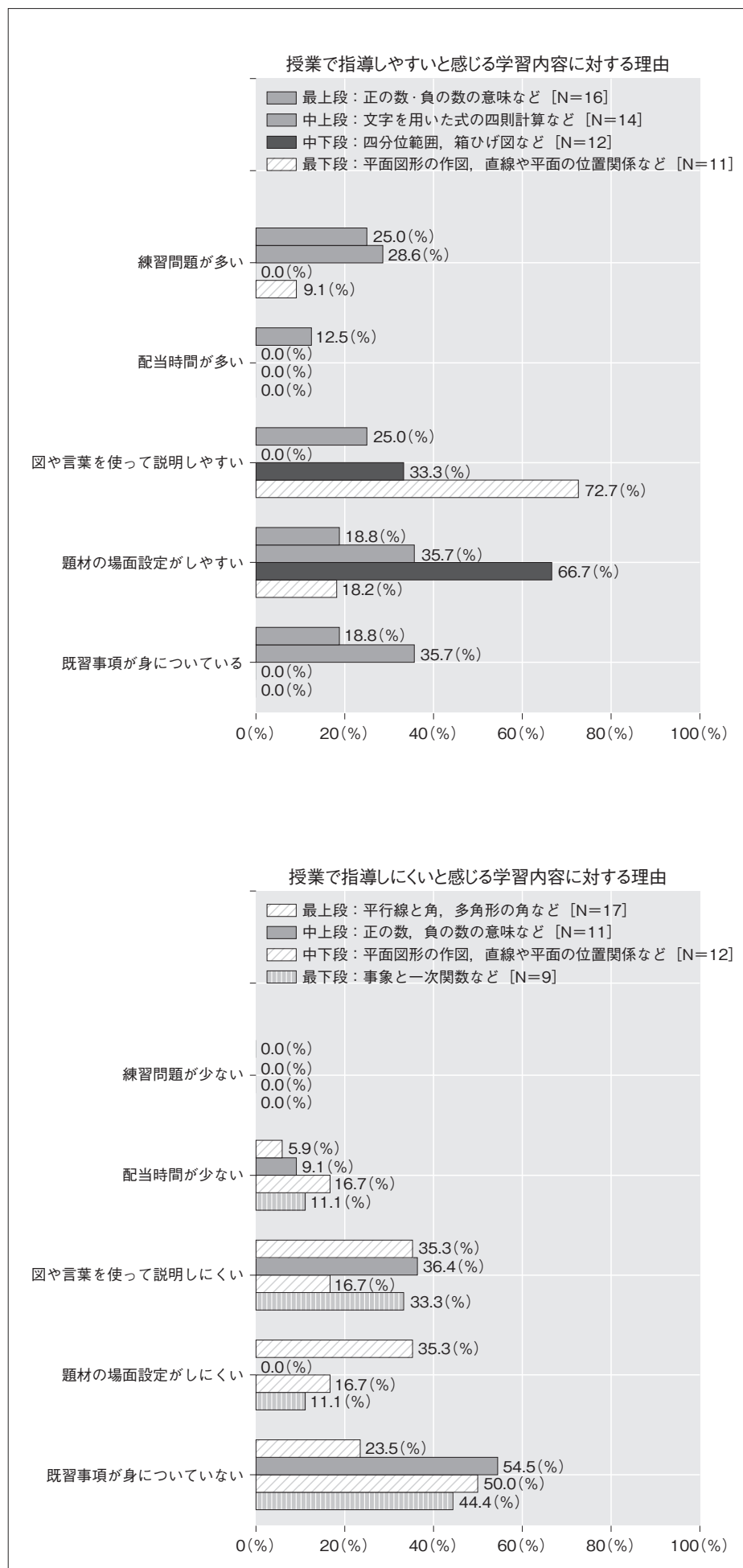
一方、「授業で指導しにくいと感じる学習内容」は、上位3つまで複数回答可で、反応者数40人において、二年生の「平行線と角、多角形の角」が17人（42.5%）、一年生の「平面図形の作図、直線と平面の位置関係」が12人（30.0%）、一年生の「正の数・負の数の意味」が11人（27.5%）、二年生の「事象と一次関数」が9人（22.5%）であった。

指導しにくい理由として、「平行線と角、多角形の角」の学習内容では、「図や言葉を使って説明しにくい」が35.3%、「題材の場面設定がしにくい」が35.3%であった。また、「平面図形の作図、直線と平面の位置関係」の学習内容では、「既習事項が身についていない」が50%であった。

指導のしやすさ・しにくさが分かれる学習内容として、一年生の「正の数・負の数の意味」、一年生の「平面図形の作図、直線と平面の位置関係」がみられた。

Q 授業で指導しやすい（授業で指導しにくい）と感じる学習内容とその理由を挙げてください。
（中学校数学）





b. 理科

DATA① 授業で指導しやすいと感じる学習内容と指導しにくいと感じる学習内容について (小学校理科)

「授業で指導しやすいと感じる学習内容」は、回答者数27人に対して、上位3つまで複数回答可で、五年生の「振り子の運動」が11人（40.7%）、「物の溶け方」が7人（25.9%）、六年生の「てこの規則性」が7人（25.9%）、六年生の「燃焼の仕組み」が6人（22.2%）であった。

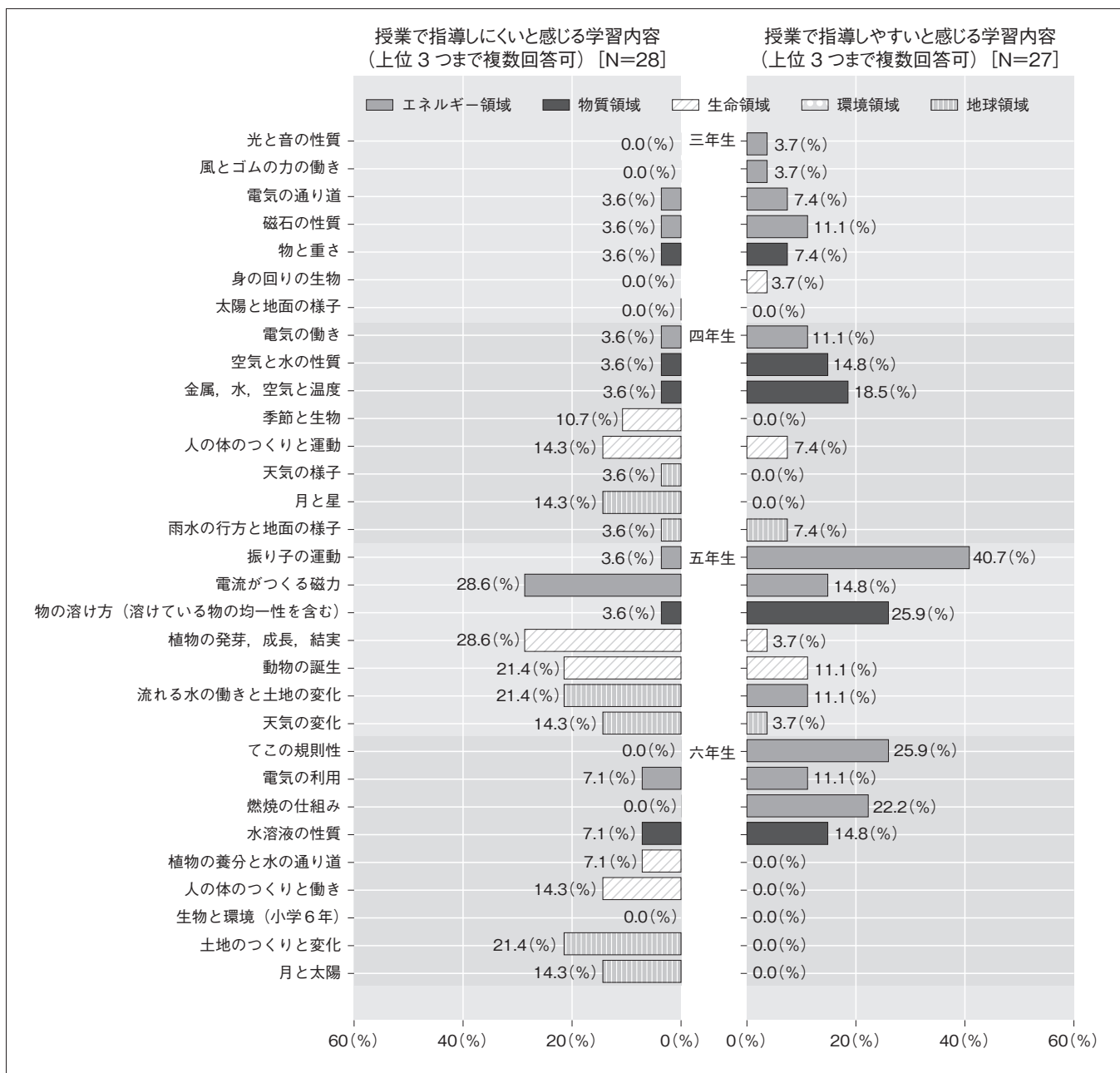
指導しやすい理由として、「振り子の運動」では、11人のうち7人（63.6%）が「題材の場面設定がしやすい」を選択し、「物の溶け方」では、回答者数7人のうち3人（42.9%）が「題材の場面設定がしやすい」を選択した。また、「てこの規則性」では、回答者数7人のうち6人（85.7%）が「題材の場面設定がしやすい」を選択し、「燃焼の仕組み」では、回答者数6人のうち4人（66.7%）が「題材の場面設定がしやすい」を選択した。

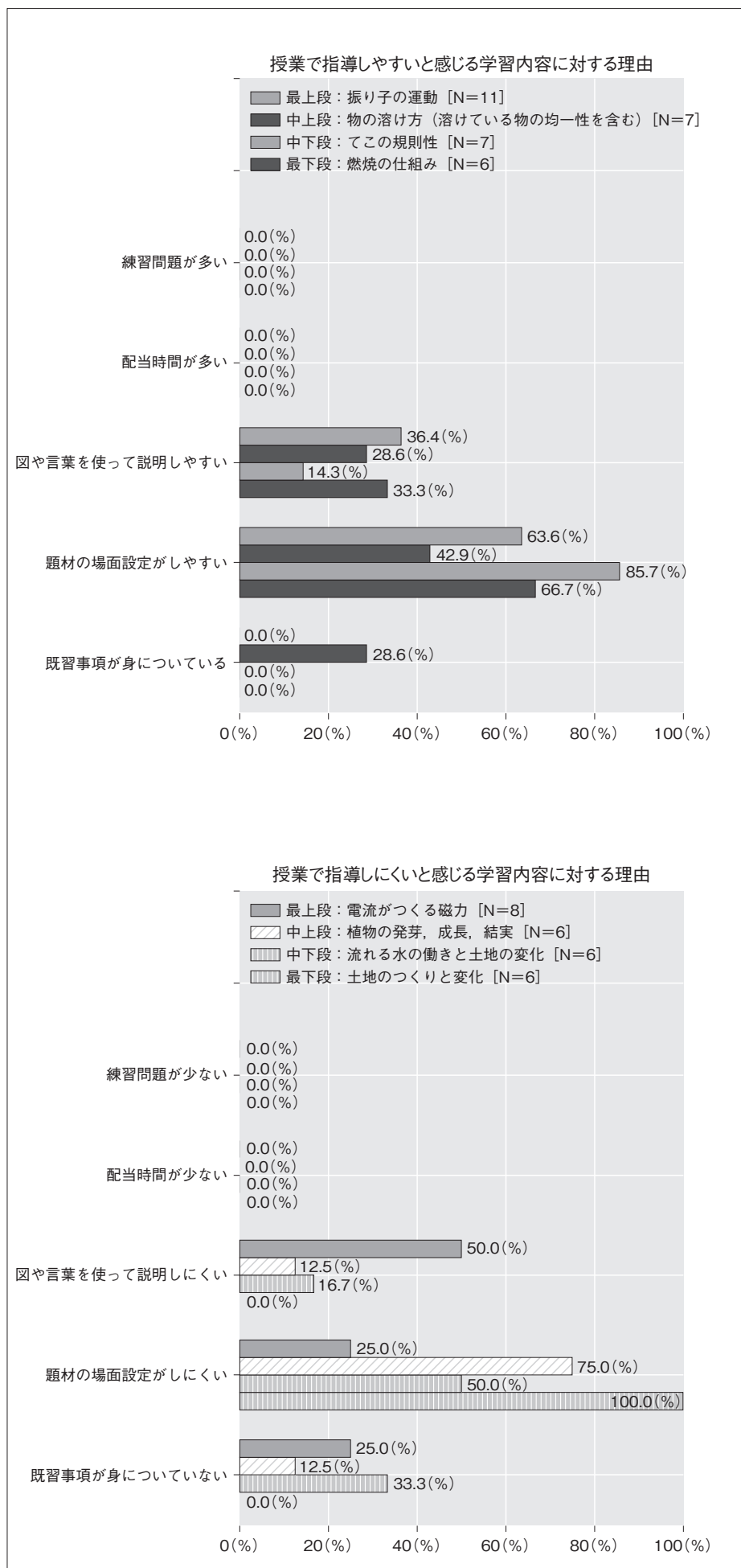
一方、「授業で指導しにくいと感じる学習内容」は、回答者数28人に対して、上位3つまで複数回答可で、五年生の「電流が作る磁力」、「植物の発芽、成長、結実」が8人（28.6%）、五年生の「動物の誕生」、「流れる水の働きと土地の変化」が6人（21.4%）、六年生の「土地のつくりと変化」が6人（21.4%）であった。

指導しにくい理由として、「電流が作る磁力」では、8人のうち4人（50.0%）が「図や言葉を使って説明しにくい」を選択し、「植物の発芽、成長、結実」では、8人のうち6人（75.0%）が「題材の場面設定がしにくい」を選択した。また、「流れる水の働きと土地の変化」では、6人のうち3人（50.0%）が「題材の場面設定がしにくい」を選択した。さらに、「土地のつくりと変化」では、6人全員が「題材の場面設定がしにくい」を選択した。

Q 授業で指導しやすい（児童生徒が理解しやすい）と感じる学習内容とその理由を挙げてください。
（小学校理科）

Q 授業で指導しにくい（児童生徒が理解しにくい）と感じる学習内容とその理由を挙げてください。
（小学校理科）





DATA② 授業で指導しやすいと感じる学習内容と指導しにくいと感じる学習内容について
(中学校理科)

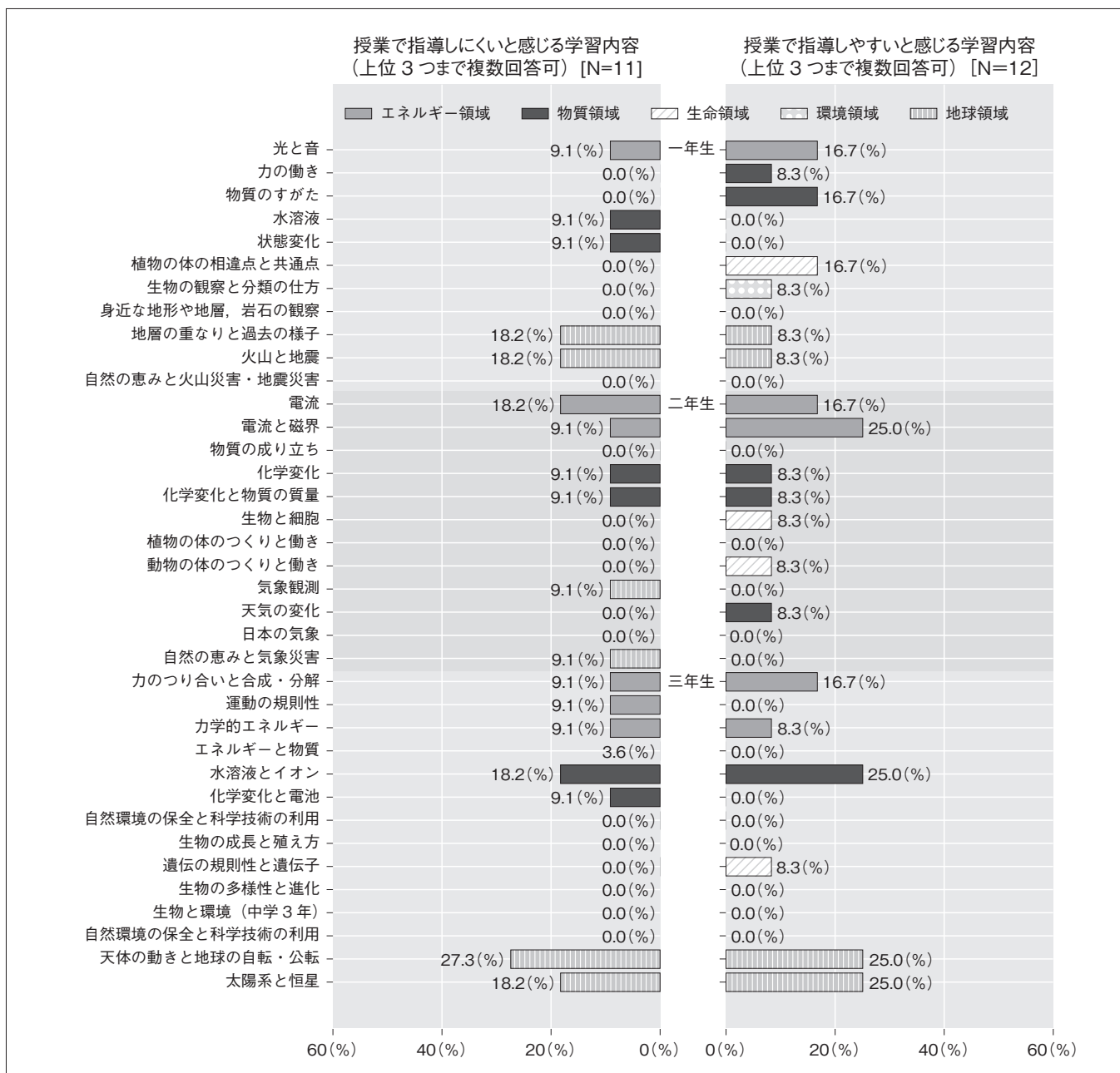
「授業で指導しやすいと感じる学習内容」は、回答者数12人に対して、上位3つまで複数回答可で、二年生の「電流」が3人(25.0%)、三年生の「水溶液とイオン」、「天体の動きと地球の自転・公転」、「太陽系と恒星」がそれぞれ3人(25.0%)であった。

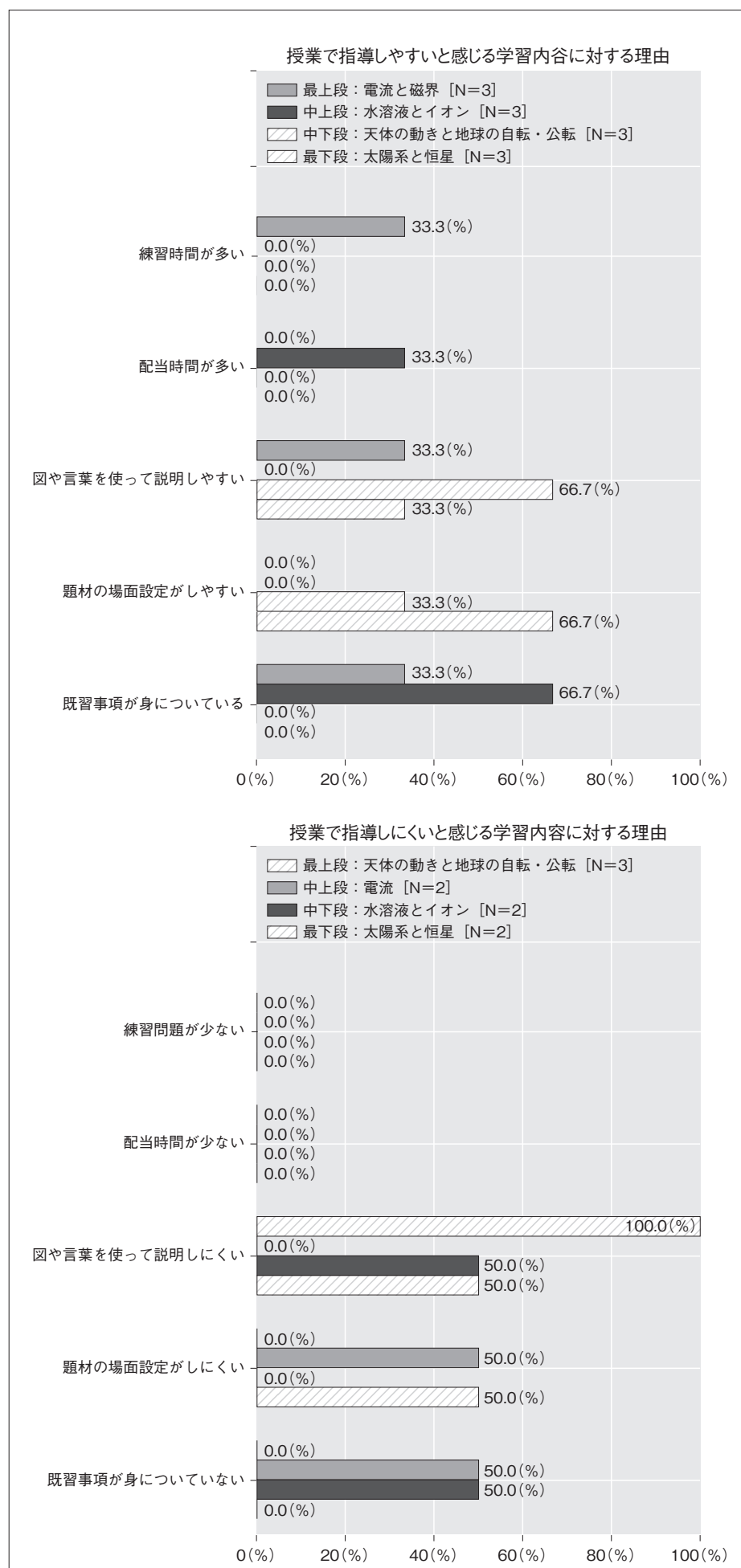
指導しやすい理由として、「水溶液とイオン」では、3人のうち2人(66.7%)が「既習事項が身についている」を選択し、「天体の動きと地球の自転・公転」では、3人のうち2人(66.7%)が「図や言葉を使って説明しやすい」を選択した。また「太陽系と恒星」では、3人のうち2人(66.7%)が「題材の場面設定がしやすい」を選択した。

一方、「授業で指導しにくいと感じる学習内容」は、回答者数11人に対して、上位3つまで複数回答可で、三年生の「天体の動きと地球の自転・公転」が3人(27.3%)であった。指導しにくい理由として、「天体の動きと地球の自転・公転」では3人全員(100%)が「図や言葉を使って説明しにくい」を選択した。

Q 授業で指導しやすい（児童生徒が理解しやすい）と感じる学習内容とその理由を挙げてください。
（中学校理科）

Q 授業で指導しにくい（児童生徒が理解しにくい）と感じる学習内容とその理由を挙げてください。
（中学校理科）





DATA① 授業で指導しやすいと感じる学習内容と指導しにくいと感じる学習内容について
(小学校外国語)

「授業で指導しやすいと感じる学習内容」は、上位3つまで複数回答可で、反応者数24人において、「積極的に尋ねたり答えたりしようとする」が13人（54.2%）、「外国語を聞き、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ」が12人（50.0%）、「積極的に聞こうとする」が10人（41.7%）であった。

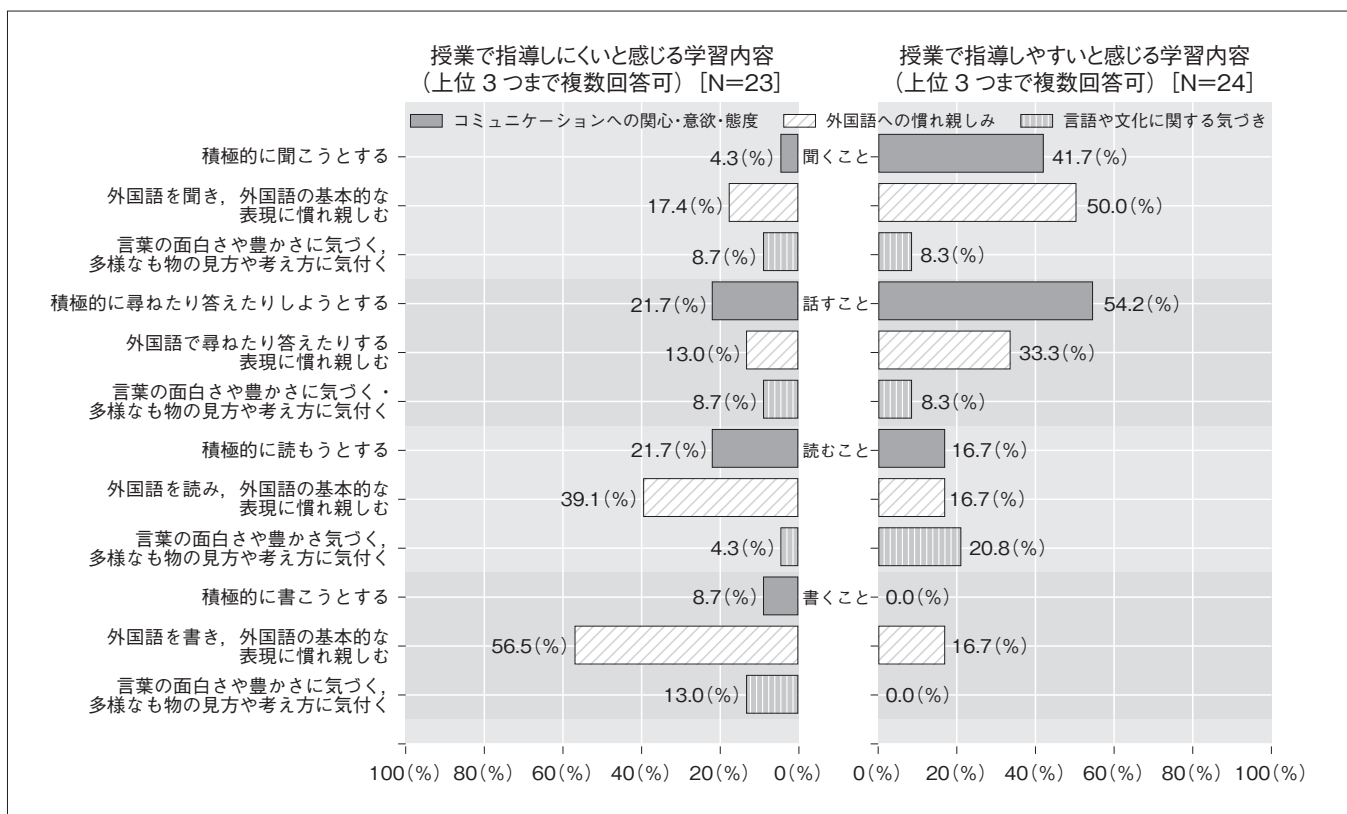
授業で指導しやすいと感じる理由として、「積極的に尋ねたり答えたりしようとする」に対しては「言語活動に取り組みやすい」が53.8%、「外国語を聞き、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ」に対しては「音声や文を正しく理解させやすい」が41.7%、「積極的に聞こうとする」に対しては「具体的な場面や状況の設定がしやすい」が50.0%であった。

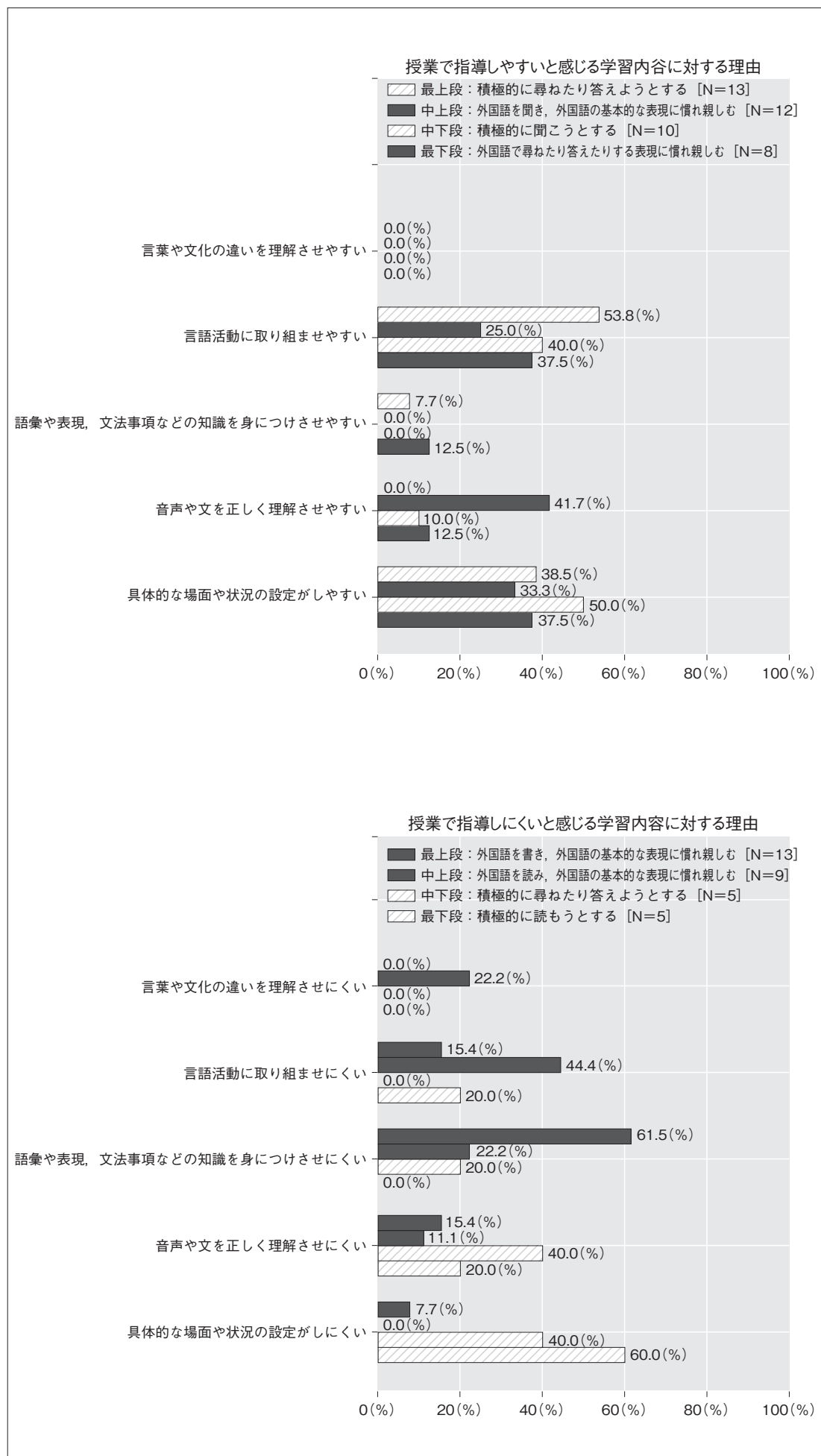
一方、「授業で指導しにくいと感じる学習内容」は、上位3つまで複数回答可で、反応者23人において、「外国語を書き、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ」が13人（56.5%）、「外国語を読み、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ」が9人（39.1%）、「積極的に尋ねたり答えようとしている」、「積極的に読もうとする」が5人（21.7%）であった。

授業で指導しにくいと感じる理由として、「外国語を書き、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ」に対しては「語彙や表現、文法事項などの知識を身につけさせにくい」が61.5%、「外国語を読み、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ」に対しては「言語活動に取り組みにくい」が44.4%、「積極的に尋ねたり答えようとしている」に対しては「音声や文を正しく理解させにくい」と「具体的な場面や状況の設定がしにくい」が40.0%、「積極的に読もうとする」に対しては、「具体的な場面や状況の設定がしにくい」が60.0%であった。

小学校では、「聞く・話す」指導がしやすく、「読む・書く」指導が難しいと感じられる傾向がある。学習指導要領では、小学校外国語活動では「聞く・話す」、小学校英語では「聞く・話す（やり取り）・（発表）」を指導することになっており、「文字については、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして取り扱うこと」と明記されている。そのため、「読む・書く」指導よりも「聞く・話す」指導が重視されており、「聞く・話す」において教師が「指導しやすい」と回答していることは望ましい。

Q 授業で指導しやすい（授業で指導しにくい）と感じる学習内容とその理由を挙げてください
（小学校外国語）





DATA② 授業で指導しやすいと感じる学習内容と指導しにくいと感じる学習内容について (中学校英語)

「授業で指導しやすいと感じる学習内容」は、上位3つまで複数回答可で、反応者数17人において、「場面や状況に応じて英語で適切に話すことができる」と「英語で書かれた内容を正しく読み取ることができる」が5人（29.4%）、「『聞くこと』の言語活動に積極的に取り組んでいる」、「『話すこと』の言語活動に積極的に取り組んでいる」が4人（23.5%）であった。

授業で指導しやすいと感じる理由として、「場面や状況に応じて英語で適切に話すことができる」に対しては「具体的な場面や状況の設定がしやすい」が80.0%であった。「英語で書かれた内容を正しく読み取ることができる」に対しては「語彙や表現、文法事項などの知識を身に付けさせやすい」が60.0%であった。「『聞くこと』の言語活動に積極的に取り組んでいる」に対しては「言語活動に取り組ませやすい」が50.0%、「『話すこと』の言語活動に積極的に取り組んでいる」に対しては「言語活動に取り組ませやすい」と「具体的な場面や状況の設定がしやすい」が50.0%であった。

一方、「授業で指導しにくいと感じる学習内容」は、上位3つまで複数回答可で、反応者14人において、「英語で話されたり読まれたりする内容を正しく聞き取ることができる」、「自分の考えや気持ち、事実などを英語で正しく話すことができる」、「自分の考えや気持ちなどを英語で正しく書くことができる」、「目的に応じて英語で適切に書くことができる」が3人（21.4%）であった。

授業で指導しにくいと感じる理由として「英語で話されたり読まれたりする内容を正しく聞き取ることができる」と「自分の考えや気持ち、事実などを英語で正しく話すことができる」、に対しては「音声や文を正しく理解させにくい」が66.7%、「自分の考えや気持ちなどを英語で正しく書くことができる」に対しては「語彙や表現、文法知識などの知識を身につけさせにくい」が66.7%、「目的に応じて英語で適切に書くことができる」に対しては「具体的な場面や状況の設定がしにくい」が100.0%であった。

中学校においては、「聞く・話す」に加えて「読む」指導もしやすいという回答が見られた。一方で、「聞く・話す」に正確さを求めたり、「書く」指導に困難を示す傾向がある。『令和5年度全国学力・学習状況調査報告書』（国立教育政策研究所，2023）でも、聞くことに関しては、必要な情報を聞き取るように指導すること、話すことに関しては、内容伝達に重点を置きながらも正確さに意識を向けるよう指導すること、そして書くことに関しては、読んだことを基に自分の考えやその理由を書く指導や、言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分ける指導の充実が求められている。

Q 授業で指導しやすい（授業で指導しにくい）と感じる学習内容とその理由を挙げてください。
（中学校英語）

